

耕地1反当粗収益 専従者1人当粗収益	1万5千円～ 1万5千円	2万～ 2万5千円	2万5千～ 3万円	3万～ 3万5千円	3万5千～ 4万円	4万～ 4万5千円	4万5千～ 5万円	5万～ 7万5千円	7万5千～ 10万円
22～24万円								★ 天水町	
20～22万円								★ 河内茅野村	
18～20万円									
16～18万円									
14～16万円	波野村								
12～14万円	高森町								
10～12万円	白木村 長陽村 託麻村	蘇陽町 西合志村 合志村	小国町 南関町 上村	西原村 河浦町	植木町 菊水町 人吉市多良木町	山鹿市 鹿央村 三加和村豊野村	菊鹿村 荒尾市		
8～10万円									
6～8万円	芦北町 牛添市	東陽村 大矢野町 水俣市津奈木村 坂本村	三角町 相良村 新和町	北部村 水上村	鹿北町 長洲町 湯浦町 倉岳町				
4～6万円	御所浦町 天草町	球磨村 竜ヶ岳町		泉村					

注1. 熊本県平均土地生産性
(耕地反当粗収益)
28,294円

2. 熊本県平均労働力生産性
(専従者1人当粗収益)
122,713円

3. 大字は新産地域

4. ■ 果樹 1戸当り1反以上
★ 水田率40%以上
☆ 畑率50%以上

若い仲間との交流を

—吹きさらす寒風の中に成長しつつある新しい芽よ—

岡田 哲也

農業への魅力

私は農村人口が他産業に流出することは喜ぶべき現象だと思ふ。

なぜなら、人間の躍動の原動力である食糧の生産を業とする農業は、今後いかに科学が発達しても、絶対に欠くべからざる仕事だろう。しかも人口の増加と並行して、その消費はいよいよ増大の傾向にあることはいうまでもないことだろう。

こうした人間生活に不可分な仕事を敬遠する者が多くなるといふことは、それだけ後に残った者は得をするということであってこれは自然の原理だろうと思ふ。私はここに農業への魅力を探らう。

私が、現在営んでいる酪農も、世界的には斜陽化しつつあるなどと叫ばれ、国内でも昨今は、非常な苦境に立たされているようである。反面その不況が又最大の「魅力」と私は考えている。

実績発表大会で

以上のようなことから、私は農業が他産業に比して、決してコンプレックスを感じるものではないことを強調したい。

すでにいよいよつくされた農村での問題に「農家の嫁キキ」が依然として深刻な影を我々の周辺に投げかけているが、果してそれが、現在の農業のすべてを表現しているかというそれは大きな誤り

だろう。

事実私は二月十八、九の両日県農試で開かれた県内農村青年の実績発表大会に参加し、そのたくましく躍動し、農業への情熱を燃やす青年男女の方々に接し、私は自分が独身であるといえぬことを残念に思っただけである。農業の次の主人公たるべき新しい芽は、吹きさらす寒風の中に、点々とではあるが力強く成長しつつあるんだ、と強く感じた。もちろん数の面では以前の比ではないだろうが、こういった仲間が完全に一人立ちできた時、外国農業の圧迫など問題にはならないんだと痛感したものである。そして、激しい時の流れに乗り遅れないためにも、こういった仲間同志の交流の機会が、より多くの人々に与えられるなら、私は願わずにはいられなかった。

新しい芽を育てよ

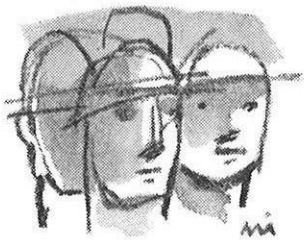
世界的にも国内的にも急速なテンポですべてが変貌している。国際市場への仲間入りとともに農産品の自由化は急テンポで進められ、農業への恐威はいよいよまぬがれないと思ふ。そして、日本の農業生産の基盤は、外国のそれとは比較にならないくらいに幼稚なものだろう。

一部を除いては、ひとたまりもなく自由化の前に吹き飛ばされ、結果的には工業製品輸出のおおりにくって、農業の根底はゆさぶられ、農民の生産意欲そのものを失うことになるかも知れない。理論的には米は米の適産国へ、酪農製品はその適産国で、日本は工業一本でというのがなりたつかも知れない。しかしそれはあくまでも理想として棚上げして、私はやはり、国内需要を満たす分だけは、国内で生産しなければならぬことになると思ふ。

ここで私は強く主張したい。つまり先にのべた、たくましい創造力と、実行力を備える農村の芽が、一人前に成長するまでは、国としては内外の情勢と照らし合わせて強力な施策を展開していただきたいのである。

私たちも、決して現状に甘んじることなく、前進のための努力は惜しまないつもりである。この両者の意気があってこそ、はじめて日本農業の発展と、安定が約束されるものと確信するのである。

(水俣市江添 26才)



酪農にすべての情熱を……(牧場での岡田君)